

令和7年度 学校評価

加賀市立三谷小学校

<p>学校教育ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校スローガン サチ（幸せ）いっぱい学校 ◇学校教育目標 自分の夢や希望の実現に向けて 挑戦する子の育成 	<p>◇めざす子供の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> ①物事に興味をもち、自ら課題をもつ子 ②自ら考え、判断し、進んで取り組む子 ③物怖じせず、自分の考えを表現する子 ④より良いものを求め、自分の生き方を考える子 ⑤相手の立場や意見を尊重し、共に高め合える子 	<p>◇めざす学校の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> ①安心安全な環境で子供も職員も力を発揮することができる学校 ②学校経営ビジョンをもとに、全教職員が同じ方向で職務を遂行し学校運営を行う学校 ③家庭や地域に学校の方針や状況を積極的に発信し、協働的に連携を図る学校 	<p>◇めざす教師の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題意識をもち考え行動する教師 ②組織に貢献しチームとして機能する教師 ③授業改善、研修に努める教師 ④子供について語り、子供に寄り添い働きかけ続ける教師
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
①教育課程・学習指導	学校研究と連携し、基礎基本の習熟を図り、一人一人を伸ばすことを意識した授業づくりに取り組み、学力の向上を目指す。	帯タイムや授業の導入時に基礎基本の習熟を図る。また、各学期ごとに国語と算数の重点単元を設定し、学校研究と連携した授業づくりを行い、学力向上に取り組む。	教務主任	昨年度の取組から、基礎基本や既習の積み上げに課題が残った。基礎基本の習熟と指導事項に合った重点単元を設定し、授業改善を行った。	【成果指標】 国語と算数の重点単元テストにおいて、一人一人の児童につけたい力が付いている。	重点単元テストで個人の目標を達成した児童が、 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	1,2学期の重点単元テスト
②生徒指導 ※いじめの未然防止	生徒指導の4つの視点を活かした「いじめ未然防止・早期発見」に努める。	「いじめの未然防止・早期発見」に努めるために、生徒指導の4つの視点を本校の実態に応じて項目を焦点化し、毎月、児童の姿を見取り、振り返りを記述し、次の指導に生かす。	生徒指導主事	職員間の「生徒指導4つの視点を意識した授業」に対する意識は充分高まっている。これからは職員の取組を児童の姿で評価していきたい。	【満足度指標】 児童が学校生活を楽しいと感じている。	アンケートで「学校が楽しい」と答える児童の上位回答の割合が、 A90% B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に児童アンケートの実施
③キャリア教育・進路指導	児童がより良い成長を目指して、夢や希望をもって努力し、やり遂げた満足感を味わい、将来への夢や希望を膨らませて自己肯定感を高める。	キャリアパスポートを活用して、各種行事や活動等において、各学年の発達段階に応じて、児童自身がなりたい自分を目指した目標を設定し、達成できるようにする。また、目標に対する振り返りを行い、次につなげるようにする。	キャリア担当	行事や活動において個人の目標に向かって努力する児童が多い。今年度も、児童自身がなりたい自分のための目標設定をし、達成に向けて支援していく。	【努力目標】 行事や活動等において、児童が自分事とし、なりたい自分のための目標設定をし、その達成に向けて努力することができる。	児童アンケートにおいて、行事や活動等で、児童が目標設定したことに対して「自分自身が成長した、目標達成に向けて努力した」と肯定的に答えた児童の割合が、 A95%以上 B90%以上 C80%以上 D80%未満	7月・12月に児童アンケートの実施
④保健管理	心身の健康保持に関心をもち、心の健康の向上に向けた指導の充実を図る。	学校保健委員会やスクールカウンセラーの授業、児童委員会活動で心の健康の向上に関わる取組をする。	養護教諭	自分に自信がなく、上手に発言できない児童がいる。	【満足度指標】 行事や活動等において、児童が自分事とし、なりたい自分のための目標設定をし、その達成に向けて努力することができる。	「あなたの心は健康だと思いますか」と答えた児童の割合が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月、12月に児童アンケートの実施
⑤安全管理	防災の知識や意識を高め、「自分の命は自分で守る」ために、児童が自ら考え、その場に応じた行動ができることを目指す。	「自分の命は自分で守る」行動が取れるように、事前・事後の指導の充実を図り、児童・教職員がめあてをもち訓練に臨む。	生徒指導主事	一昨年度前の能登半島大震災の経験もあり、災害から「自分の命は自分で守る」という意識の高まりがみられる。	【努力指標】 「自分の命は自分で守る」を合言葉に、事前・事後の指導の充実を図り、児童・教職員がめあてをもち訓練に臨む。	「自分の命は自分で守る」ために、めあてをもち訓練に取り組むことができたという児童の上位回答の割合が A90% B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に児童アンケートの実施
⑥特別支援教育	児童の困り感や特性を共通理解し、全職員で支援策を検討・共有・見直しをし、個に応じた支援体制を整える。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、LITALICOを使用して情報をまとめ個に応じた支援策を検討したり、支援体制を整えたりする。	特別支援教育コーディネーター	学習面・行動面で気になる児童について、教職員で共通理解を図っている。児童が安心して学びに向かえるよう、特に学習支援が必要な児童について情報交換し、支援体制を整えていく。	【努力指標】 LITALICOを使用し情報をまとめて児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり、支援体制を整え、個に応じた支援をする。	LITALICOを使用し情報をまとめて児童の理解を深め、支援策の検討や支援体制を整え、個に応じた支援をすることができたと答えた教職員の上位回答の割合が、 A100% B90%以上 C80%以上 D80%未満	7月・12月に教職員アンケートの実施
⑦組織運営・業務改善	全教職員が情報を共有し、効率的に業務を遂行できるようにする。	ICTを活用することで、全教職員による情報共有の周知を推進するとともに、業務の効率化を図る。	教頭	C4thやCodomon等を活用して、行事予定や諸連絡等を全教職員が共有できる環境は整っているが、十分に周知されていない現状がある。	【努力指標】 ICTを活用することで、全教職員が情報共有ができ、業務の効率化につなげる。	ICTを活用することで、全教職員が情報共有ができ、業務の効率化につなげることができたと答える教職員の上位回答の割合が、 A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に教職員アンケートの実施
⑧研修	児童一人ひとりを伸ばすための授業実践を通して、児童が自分でやってみようという思いをもち、ゴールに向かって学び進めていく姿を増やす。	児童一人ひとりを伸ばす力を付けていくために、付けたい力を目指す学びの姿を明確にし、学習環境をデザインした授業づくりを進めていく。	研究主任	児童は学びに真面目に取り組んでいるが、主体的に学びに向かう姿があまり見られない。学校は、少人数の中で主体的に学び進める児童の姿の具体を明確にして授業づくりを進めていく必要がある。	【努力指標】 児童が、やってみようという思いをもち学習のゴールに向かって学び進めることができるよう、目指す児童の姿を確かめながら授業づくりに取り組む。	学習のゴールに向かって自分で学び進めることができたという児童と、児童がゴールに向かって主体的に学び進める授業づくりができたという教職員の上位回答の割合が、 A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に児童・教職員アンケートの実施
⑨保護者、地域との連携	地域の魅力を生かした実践を通して、児童の地域への感謝や誇り、郷土愛の心を育てる。	地域の方との連携を図り、地域人材や地域教材を生かした授業実践を行い、学んだことを地域に発信する取組を行う。	教頭	豊かな自然、人材等、学びの環境が大変充実している。学校運営協議会の取組が充実しているが、学習支援における取組が十分とは言えない。	【成果指標】 児童が、授業で地域の人から学ぶ機会をもち、地域の魅力を知るとともに、学んだことを地域に発信できる。	授業で地域の人から学び、地域の魅力を知り、地域に発信できたという児童・職員の上位回答割合が、 A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に児童・教職員アンケートの実施
⑩教育環境整備	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等、教育効果を高める学習環境の充実を図る。	児童の学びの足跡、既習、成果物等、教育効果を高める学習環境整備に努めるとともに、教職員が情報共有できる場を設けることで、連携して取り組めるような環境をつくる。	教頭	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境の整備に取り組んでいるが、教職員間の共有・連携が十分とは言えない。	【努力指標】 教職員が連携して、児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境を整備する。	教職員が連携して、児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境整備に努めたという教職員の上位回答割合が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に教職員アンケートの実施